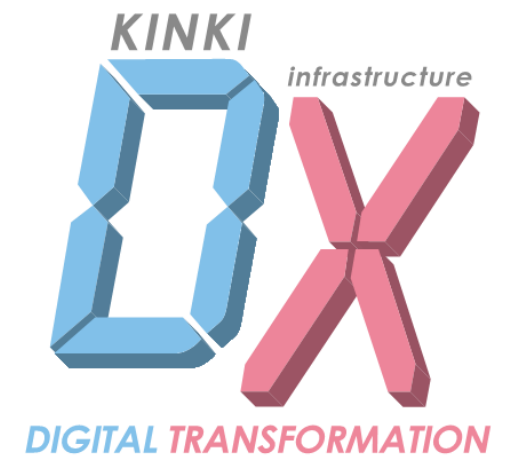


近畿地方整備局 生成AI活用ビジョン2026

～AIを活用した業務変革の実現に向けて～



- ◆ 政府全体として、令和8年7月14日に「第Ⅱ期人工知能基本計画（AI基本計画）」が閣議決定
- ◆ 生成AIを政府自ら積極的かつ先導的に利活用し、**職員によるAIの普段使いを浸透、定着させることにより、業務の質を向上させる**

第Ⅱ期人工知能基本計画（AI基本計画）

全体スケジュール

第Ⅱ期人工知能基本計画（概要） ～日本A X、より強く、より豊かに～	
基本構想	◎急伸するエージェント型AIに適応し、計算資源や電力から、制度・政策まで日本のAI実装能力を抜本強化 ◎AIを前提として意思決定や業務の進め方を根底から見直す「AIトランスフォーメーション」（AX）を推進 ◎人が人として創造すべき価値を探索し、「人間力」を増進しながら、「人とAIが協働する社会」を率先して実現 ◎「信頼できるAI」で社会全体を駆動し、課題解決と国力強化を探索、日本独自の価値を創出
4つの原則	●イノベーション促進とリスク対応の両立 ●挑戦と学習 ●アジャイル（柔軟かつ迅速）な対応 ●内外一体での政策推進
4つの基本的な方針に基づく施策 政府一丸でAX推進に必要な体制を構築、あらゆる制度や運用を先導見直し	
1. AI利活用の加速的推進「AIを使う」：エージェント型AI等の積極活用、政府における率先導入	
●政府・自治体でのAIの徹底した利活用 ガバメントAI「源内」の進化と普及、地方の伸び代を成長に転換（地域AX） ●AI利活用促進による社会課題解決、新事業創出 パーティカルAI・フィジカルAI中心に社会実装加速 ●データ戦略、更なるAI利活用に向けた仕組みづくり 政府・準公共・産業分野でデータ連携基盤構築	
2. AI開発力の戦略的強化「AIを創る」：AI実装能力を高め、「AI主権」を確保する	
●AI研究開発・利用基盤の拡充・高度化 国家基盤として計算資源やデータ、安定した電力供給を確保 ●日本国内のAI開発力の強化 データセット創出、内外トップ人材確保、モデル開発高度化、評価基盤・テストベッド整備 ●信頼できるAI基盤モデル等の開発 日本の文化等を踏まえたAI開発・評価、マルチモーダル基盤モデル開発推進 ●日本の勝ち筋の追求 パーティカルAI（領域別戦略）、フィジカルAI（AIロボティクス、自動運転）、AI for Science	
3. AIガバナンスの主導「AIの信頼性を高める」：AIエコシステムにおける「信頼」の構築で世界をリード	
●責任あるアジャイル・ガバナンスの実現 AI法を含めた制度等の能動的かつ不断の見直し、Project YATA-Shield ●ASEAN等グローバルサウス諸国を含めた国際協調 AISI機能強化、信頼できるAI共創に向けAIサミットの早期日本開催	
4. AI社会に向けた継続的変革「AIと協働する」：人が意思決定への責任を持ちながら、AXで日本を駆動	
●AIを前提とした産業構造・雇用環境の構築 中小企業、地方含むAX推進（取組可視化等）、雇用への影響を調査研究 ●AI社会における制度・枠組みの検討・実証 規制・制度改革、人とAIの責任関係、知財保護・利活用につながる透明性確保 ●AI時代の人材の育成・確保 AI実装人材育成・確保、全ての国民のAIに関するリテラシー向上、リスクリテラシー支援 ●AI時代における人間力の向上 創造力、批判的思考、判断責任など人間力向上、人とAIの役割分担の探究	
→ 本基本計画は当面毎年変更、適切なベンチマーク（KPI等）を設定しモニタリング	

第Ⅱ期人工知能基本計画の概要（R8.7.14）抜粋

【具体的な取り組み】

（1）政府・自治体でのAIの徹底した利活用

- ①政府業務における生成AIについて、適切な利活用並びに業務の質の向上及び効率化を推進する。

- ◆ 令和7年12月23日
人工知能基本計画（AI基本計画）閣議決定
- ◆ 令和8年3月25日
インフラ分野のDX推進本部
・インフラ分野のAI実装に向けた取組方針（骨子案）提示
・インフラ分野のAI技術を活用した各施策を紹介
- ◆ 令和8年3月31日
国土交通省技術基本計画 策定
- ◆ **令和8年7月14日**
第Ⅱ期 人工知能基本計画 改定
- ◆ 令和8年8月26日（予定）
インフラ分野のDX推進本部
・インフラ分野のAI実装に向けた取組方針とりまとめ
- ◆ 令和8年下半年
インフラ分野のDX推進本部
・次期アクションプラン（R9～）

- ◆ 国土交通省は、令和 8 年 3 月 2 5 日にインフラ分野のAI実装に向けた取組方針（骨子案）を提示
- ◆ インフラの管理者（発注者）が自ら、あらゆるAI技術を徹底活用し、将来にわたってインフラマネジメントを持続

第 1 2 回国土交通省インフラ分野のDX推進本部

○政府及び国交省における生成AI利用環境

時期	内容
2025年5月～	・デジタル庁内において職員向けにガバメントAI「源内」運用開始 ・行政の進化と革新のための生成AIの調達・利活用に係るガイドライン策定
2025年10月～	・国交省内全職員においてMicrosoft Copilot Chat業務利用開始
2025年12月～	・国交省含む一部省庁でガバメントAI「源内」試験的利用開始
2026年5月頃～年度末	・国交省含む希望省庁にてガバメントAI「源内」大規模導入実証 行政実務における生成AI利用環境の効果や課題を検証

第12回インフラDX推進本部（R8.3.25）本部長技監 抜粋

- ✓ インフラの管理者（発注者）自らがあらゆるAI技術を徹底活用し、行政使命として国民へ提供するサービスの質を高め、産学官の協働によるオープンイノベーションの推進、フィジカルAI等の開発・実証を行い、将来にわたってインフラマネジメントを持続していく
- ✓ AIを「人の判断と行動を支える基盤」として位置づけ、人とAIが協働し、国民の安全・安心及び地域の豊かさの向上を目指す
- ✓ 検討過程、現場判断の背景等を含む「思考の地層」や現場管理に伴う「データ資源」を、将来世代がAIとともに学習・活用できる形で残す

インフラ管理者の生成AI徹底活用

- ・生成AI等を駆使し、職員の業務負担軽減や作業効率を向上させ、管理者・発注者の使命として、価値判断、意思決定及び説明責任を果たす。
- ・多様化する国民ニーズに的確に対応した「質の高い社会資本・公共サービス」を実現し、豊かな国民生活と我が国の持続的な成長を牽引する。

業務での生成AI活用知見の蓄積
建設生産管理プロセス全体でのAI導入
受発注者間での生成AI活用促進 等

産学官協働のAIデータ連携の推進

- ・防災や公共インフラなど「日本の強み」である現場に適したデータ整備・活用を推進し、AIを介した新たなビジネスモデル含むオープンイノベーション環境を構築する。
- ・質の高いデータの蓄積（標準仕様）とデータ連携環境強化（MCP等）による好循環によってAIを活かした国民生活の向上や成長戦略を追求する。

産学官協働により、AI学習用データ蓄積等の開発環境を整備・公開
民間サービス開発、ユーザー利用拡大 等

インフラ分野におけるフィジカルAI等の導入

- ・現場ニーズに対応するフィジカルAI技術の導入に向け、業務プロセスの改革も視野に入れ、技術開発・現場実証を推進する。
- ・排水機場ポンプ設備について、故障・障害の発生日予兆検知や寿命予測を実現するAIモニタリングシステムの開発・実装を目指すなど、インフラのマネジメントにおけるAI技術の導入を推進

現場課題に即した業務プロセスの改善とともにフィジカルAIの導入のために、作業データや現場データの形式・ルールを標準化
建設機械や設備機械の高度な自律化 等

第12回インフラDX推進本部（R8.3.25）本部長技監 抜粋

国交省職員各人が率先して、生成AI等を駆使して業務効率化、そして「質の高い社会資本・公共サービス」実現に取り組む。

全体スケジュール

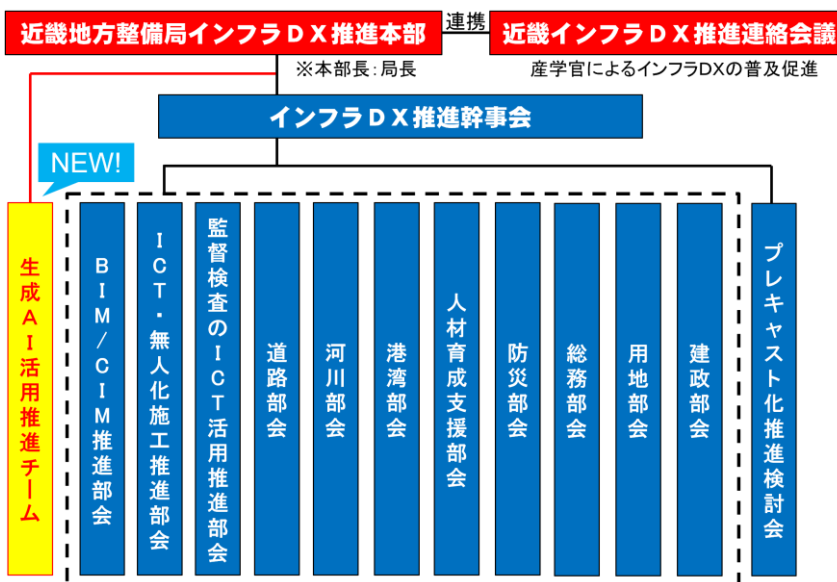
- ◆ 令和 7 年 1 2 月 2 3 日
人工知能基本計画（AI基本計画）閣議決定
- ◆ 令和 8 年 3 月 2 5 日
インフラ分野のDX推進本部
・インフラ分野のAI実装に向けた取組方針（骨子案）提示
・インフラ分野のAI技術を活用した各施策を紹介
- ◆ 令和 8 年 3 月 3 1 日
国土交通省技術基本計画 策定
- ◆ 令和 8 年 7 月 1 4 日
第Ⅱ期 人工知能基本計画 改定
- ◆ 令和 8 年 8 月 2 6 日（予定）
インフラ分野のDX推進本部
・インフラ分野のAI実装に向けた取組方針とりまとめ
- ◆ 令和 8 年下半年
インフラ分野のDX推進本部
・次期アクションプラン（R9～）

- ◆ 近畿地方整備局では、**各部会がそれぞれの業務に応じて生成AIの活用を推進**している
- ◆ 各部会が個別に取り組みを進めているため、得られた知見やノウハウの共有が十分に図られておらず、**全体最適ではなく個別最適にとどまっている**
- ◆ 近畿インフラDX推進本部のもとに「**生成AI活用推進チーム**」を新たに設置し、**優良事例の横展開**や**職員への周知・教育を一体的に推進する**

■ 生成AI活用推進チームの位置づけ

○近畿地方整備局における推進体制

R2年12月 近畿地方整備局インフラDX推進本部を設置
R3年 4月 近畿インフラDX推進センターを設置



■ 生成AI活用推進チームの目的

生成AIを職員の身近な業務パートナーとして定着させ、職員とAIが協働する新たな業務スタイルを確立するため、職員が**生成AIを使いやすい環境を整備し、活用事例や利用ノウハウを共有するとともに職員への周知・教育を一体的に進める**。また各部会の知見やノウハウを横断的に共有し、**優良事例を横展開**することで、「**生成AI活用の全体最適**」の実現を図る。

■ 具体的な取り組み内容

- **業務資料を活用した生成AIによる情報検索・回答支援**
知識や過去の経緯をAIが活用可能なナレッジとして一元化し、属人化の軽減を図る
- **生成AIによる業務情報の検索・要約高度化**
機密情報を安全に取り扱える生成AI基盤を整備し、業務資料の検索・要約の効率化を図る
- **生成AI活用事例の組織横断的な共有**
生成AIを業務基盤として位置付け、活用事例の横展開を推進し、組織全体の業務効率化を図る
- **AIエージェントによる発注事務の構造的課題解決**
定型業務や情報整理へのAIエージェント開発により、業務プロセスの見直し、人的リソースに依存しない業務執行体制の構築を図る。



■ 期待できる効果

- ✓ 生成AIの有効活用の促進
- ✓ 業務の効率化
- ✓ 整備局全体として最適なDX推進の実現

